

「研修を通じて学んだこと」

甲府病院 薬剤科 小野 将成

出身大学：横浜薬科大学（平成25年）

興味のある分野：糖尿病療養

平成26年4月より、甲府病院に採用となりました、小野将成と申します。

甲府病院の新人薬剤師は私一人でしたので、新任薬剤師研修会は同期と交流できる貴重な機会であり、とても楽しく参加できました。今回の研修を通じて私が学んだこと、感じたことを書いていきたいと思えます。

研修の前半では、「病院薬剤師としての自覚」「チーム医療とは」「医療安全」というテーマで講演がありました。

「病院薬剤師としての自覚」では、新人が病院組織の中で活動するポイントをまとめていただきました。「チーム医療とは」では、ICTの活動について看護師と薬剤師、双方の視点から学ぶことができました。「医療安全とは」では、安全の基本概念に加え、新人が医療安全に取り組む上で、まず把握しておくべき資料を提示してくださいました。

私が一番印象に残っているのは、「チーム医療とは」の講演での、「ICTやNSTといったものだけではなく、病棟単位や部署単位の職員連携もチーム医療だ」という言葉です。一人の薬剤師がチーム活動をするには、他職種との連携だけでなく、同じ薬剤師間でのサポートが重要なのです。私も最近、チーム活動ではないですが、服薬指導のため病棟へ出向いています。私が病棟へ出かけている間は薬剤科内の人数は減り、負担が増えるのですが、それでも私を病棟へ送り出して下さる薬剤科の先生方には改めて感謝しなくてははいけないと痛感しました。

研修の後半ではコンセンサスゲームというものをグループで行いました。どの様なゲームかと言うと、「飛行機事故で砂漠に遭難した状況下で、12種類の道具に優先順位をつける」というものです。まず個々で順位を決めておき、その後話し合

いでグループの答えを決定します。その際、多数決などは禁止です。

実際にやってみると、全員の納得を得るとするのは非常に難しかったです。今まで何かを決める時、いかに多数決に頼ってきたかがわかりました。順位をつけるうえで前提となるのが、「助けを待つ」か「自力で脱出する」という方針決定なのですが、時間のほとんどをこの決定に要しました。グループ内では多種多様な視点からの意見があり、白熱した議論が繰り広げられました。そのため、挙げられた意見をまとめ、双方どの様なメリットがあり、デメリットがあるのかを整理してから話し合うことで、ようやく「助けを待つ」という方針に決まりました。方針が決まってからは、比較的容易に順位を決定できました。順位の難しい道具もありましたが、その道具を使ってできることを挙げていき、方針に則しているか否かで評価をしました。

各グループの順位発表後、専門家の解答が提示されたのですが、グループで出した順位は、個々で決めた順位よりも専門家の解答に近づいていました。これは、この話し合いが有意義であったことを意味していると思えます。このゲームで学んだ納得の得かたは、今後話し合いや説明の場で、念頭に置いておこうと思えます。

今回の研修は、大変良い刺激となりました。先輩の方々や同期の考え方に触れることで、自分の立場や日々の業務の在り方を再認識できたように思えます。また、先輩の方々はもちろん、同期の知識の多さにも衝撃を受けたので、私も負けなよう、日々研鑽を重ねたいと思えます。

最後に、この貴重な機会を与えてくださった関係地区薬剤師会の先生方、ご講演いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。